

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

文化高知

2001年3月 NO.100



「ドルドーニュ川と古城」 池田 馨

〈もくじ〉

それぞれの生き方を	坂本征子	2
武政英策さんのこと	川島伸也	3
万葉文芸学(一)	浜田清次	4~5
漫画、オノマトペ、そしてちょっと文化論	岡本克人	6~7
山に学ぶ、木に学ぶ①	福留将史	8~9
仮称横山隆一コレクション展		10~11
変わっていく言葉	藤田ゆみ子	12
涙の学芸員ブルース(3)	松本教仁	13
風俗歳時記・風伯		14~15

(財) 高知市文化振興事業団

それぞれの生き方を

坂本征子

二十世紀を締めくくる昨年ほど、日本の女性の活躍が目覚ましい年はなかったように思う。

シドニー五輪でのマラソンや柔道、水泳、ソフトボールなど、大活躍した女性選手たちの明るく爽やかな笑顔は、私たちに大きな感動を与えてくれた。

女子マラソンの五輪種目としての歴史は浅く、以前はマラソンは女性にとつては過酷なスポーツであると考えられていた。高橋尚子選手の決して遅いとは言えない細身の身体から、どこに金メダルを獲得する力が生まれくるのか。恐らく常人には耐えられない毎日の練習と努力の積み重ねの結果であろう。オリンピックで活躍する日本の数々の女性選手を見て、女性の持つ不屈の精神力を見たような気がした。

政治の世界では、大阪府と熊本県に女性知事が誕生した。大阪府での知事就任の直接のきっかけは、男性の前知事が女子大生への強制わいせつ事件で辞職したことにあつたが、これらの女性知事の誕生は、これらの女性の時代を予感させるかのような出来事として強く印象に残っている。と言うのも、国会議員や地方自治体の首長、議会議員への女性の

進出は昔と比較すると随分増加してきているが、府県レベルのトップへの就任は初めてのことだからである。

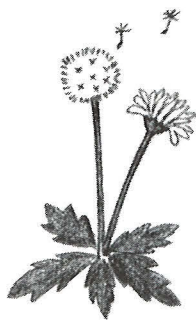
また、最近よく話題にのぼる、セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)やドメスティックバイオレンス(夫や恋人からの女性への暴力)などの、いわゆる女性問題は、女性の人権を著しく傷つける許されない行為として社会的な問題となり、解消に向けての様々な取り組みがなされている。

こうした動きや社会のあらゆる分野への女性の進出などの現実をみると、女性がじつと我慢することを強いられてきた男性優位、男性中心のこれまでの社会が、次第に変化しつつあるように思う。

最近、ダンブカーやタクシーの女性の運転手なども町中でよく見かけるし、テレビで女性のような格好をした男性を見ても別に驚かなくなり、不自然な感じを受けなくなった。女性、男性の固定化された概念が少しずつ薄れているようだ。

私たちの世代は、家庭や社会の中で「男は男らしく、女は女らしく」「男だからこうだ、女だからこうだ」と、社会的・文化的につくられた男

女の枠にはめた生き方を強いられきたし、それを当たり前として受けとめてきた。しかし、男だから強く、遅く、責任感があつて、女だから優しく、可愛く、繊細な心遣いが出てきて…などという価値観は、今や大きく揺らぎ始めている。



「男は仕事、女は家庭」といった性別による役割分担意識が是正され、職場、家庭、学校、地域社会など様々なところで、男女の差別なく、個性や能力にあつたそれぞれの生き方を、誰もが自分で選択することができる社会が間近に迫っている。
—さかもとせいこ/こうち女性絵(合センター館長)

武政英策さんのこと

川島伸也

はりまや橋にほど近いバーで武政英策さんはピアノを弾いていた。客が十人も入ればいっぱいになる小さな店だった。武政さんは窓際にある古ぼけたアップライトのピアノに向かい、客の注文に応じていた。曲はクラシックでもジャズでもなく歌謡曲だったように思う。

一九六〇(昭和三十五年)の秋ごろのこと、私は土佐高校三年生だった。高校生のぶんざいで酒を飲みに行つたわけではなく、たしかミュージシャン志望だった友人に連れられて、のぞいてみたのである。

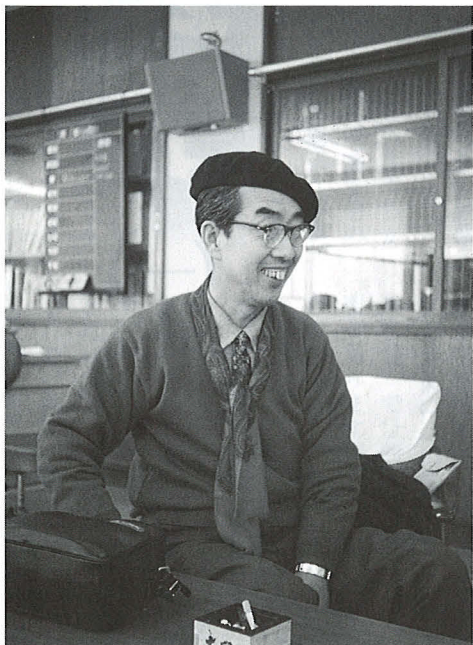
前年に武政さんの「南国土佐の後にして」がペギー葉山の歌で大ヒットしていたし、武政さんは「よさこい鳴子踊り」の生みの親として高知では著名人だった。

ヒット曲を飛ばした作曲家にしては地味な感じの武政さんだった。さ

すがどんな曲もリクエストに応じて達者に弾いていた。武政さんはピアノでピアノを弾くのを仕事としていたのだから、あるいは単なる馴染みの客だったのだからか。一言二言言葉を交わしたと思うけれど随分昔のこと、記憶はおぼろげである。

最近読んだペギー葉山のインタビュー記事で「南国土佐」を最初に歌つたのはペギー葉山ではないことを知った。その前に日本調歌手の鈴木三重子らがSP盤に吹き込んでいた。

NHK高知放送局にて(昭和40年5月)



NHK高知放送局にて(昭和40年5月)

ペギー葉山はNHK高知放送局が五八年末にテレビ放送を始めるとき開局記念番組で歌うようNHKのプロデューサーにすすめられた。ジャズ歌手のペギー葉山はまったく気乗りがせず、渋々歌つたところ大反響があり、高知から東京に帰るとすぐにレコード化された。ヒット曲の誕生にはドラマがあるものだ。

「南国土佐」は手元にある、歌謡曲のヒット曲を集めた「歌謡曲のすべて」(全音楽譜出版社)でも武政英策作詞作曲となつている。しかし異論を唱える向きもあるという。

もともとは第二次世界大戦中、高知出身者が中核となつた歩兵第二三六連隊が中国戦線で歌つていた。愛媛県生まれで戦後、高知県に移り住ん

だ武政さんは、帰還兵が口にするのを聞いて興味を持ち、採譜して歌詞を一部変えて世に出した。この辺は共同通信社がおとし「メロディーとともに」というタイトルで配信した連載記事のなかの「南国土佐の後にして」に詳しい。高知新聞に掲載されたので読まれた方も多いと思う。

もど歌があるからといって、武政さんのオリジナルではないというのはどうかと思う。哀愁を帯びた前奏、そのあとの軽快なテンポと、武政さんのテクニクとセンスがなければヒットしなかつただろう。

「よさこい鳴子踊り」は、私が高校に入学したころに始まった。そのころの熱気は隣の阿波おどりとは比べるべくもなかつたけれど、土佐弁がぎっしりのかけ声、お囃子に鳴子の組み合わせはさすが武政さんならではの、と思つていた。

九二年に札幌市の「YOSAKOI Iソーラン祭り」にとり入れられてから全国に飛び火し、私が住む千葉県でも昨年、「千葉県よさこい連絡協議会」が発足した。ことし夏、第一回YOSAKOI千葉」を開催すべく準備が進んでいる。どんなものになるか楽しみにしている。
—かわしましんや/共同通信社千(葉支局長)

万葉文芸学 (一)

浜田清次

一
雅澄を生みたる土佐の草莽ゆわ
が言挙げする万葉文芸学

二十一世紀早々の年賀状に書き記した拙詠です。「雅澄」というのは、むろん土佐の生んだ最大の国学者鹿持雅澄先生のことです。

わたくしたちの郷土土佐は、かつて鬼才大倉鷲夫が、
霊しかも 奇しきかもよ 高山
を そびらに負ひ 大海を 諸
手にいだき 天をば 蓋にせる
神の命 建依別の命

ら綺羅星のごとくですが、その煌めく星座の中で、わたくしの最も崇拜する人物は、鹿持雅澄先生であります。

雅澄先生は、寛政三年(一七九二)四月二十七日、土佐郡福井村(現、高知市福井町)に生まれ、安政五年(一八五八)九月二十七日、同地で亡くなりましたが、その六十八年の生涯において、およそ七十種、三百巻の著述をものせられています。一口に三百巻と申しますが、それは膨大な業績です。明治以後はともかく、それ以前では、土佐人として最も多くの本を書いているわけでありませう。しかも先生は、幕末土佐藩山内家の軽格の侍です。鹿持家の先祖は、藤原鎌足の血をひく飛鳥井雅経で、新古今集の撰者の一人でもあった歌

人ですが、中世の末葉、「雅澄八世の祖」飛鳥井雅量(曾衣)が土佐に來住して以来、代代非運に見舞われること多く、零落を重ねて、先生の頃にはほとんどその極に達してしました。先生は五十六歳でやっと白札(準士官)になるという体たらくで

です。禄高は三人扶持、切米十一石です。その貧賤にかたて加えて、四十六歳の時、内助の功の大きかった妻菊女(土佐勤王党首領武市瑞山の叔母)に先立たれます。あとに老いた父と四人の子供が残されます。三百巻の本は、そうした逆境の中にあつて、それこそ孜孜矻矻、「昼夜の力を致し」——昼も夜も一生懸命になつて書かれたのです。この旺盛な好學心と不撓不屈の長大な意志、まことに懦夫をして起たしめるものが

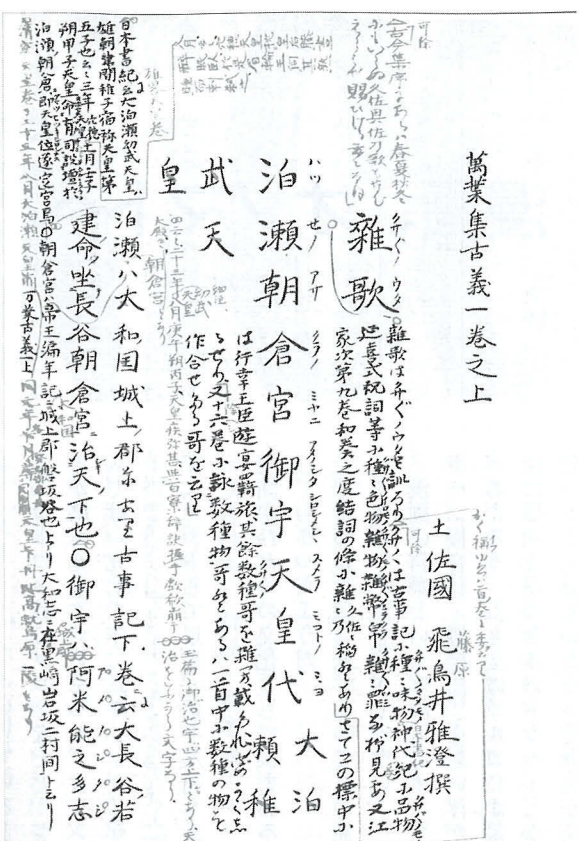
あるではありませんか。

二

ところで、その膨大な著作の中で一番素晴らしい業績は、何と言つても『万葉集古義』でなければなりません。

百四十一冊。万葉集二十巻の注釈に九十五冊をあて、これを中心として、総論・作家・地名・動植物・枕詞・語法など、従来の研究を総合、近世万葉学の集大成書となつています。そのむかし、流人石上乙麻呂によつて「南荒」と称せられた辺境土佐の草莽にあつて、ほとんど独学でこの大著を成し遂げ、日本文化史上不朽の金字塔たらしめたことは、正に驚嘆に値する偉業であります。さうしてそれは、土佐人の学問的天質

『万葉集古義』(高知県文教協会刊より) 雅澄の手によって増補訂正の筆が加えられている



萬葉集古義一卷之上

土佐國 飛鳥井雅澄撰

を示すものとして、後進の奮起を促すものでなければなりません。
わたくしは青春多感の日、高知市福井鹿持山なる先生の奥津城に詣でて、その遺言ともいふべき墓碑の銘、余以後將生人者古事之吾壘道爾草勿令生曾(あれゆのち うま れむひとは ふることの あが はりみちに くさなおほしそ)に廻天の感動を覚えて以来、この『万葉集古義』を座右の書として、古典の世界に入つて行きました。

道探求の熱意といい、なべて立派なものでした。本居宣長大人の『古事記伝』と並び称すべき名著でした。わたくしは、この本を何度くりかえし読んだか知れませんが、ある巻のごときは、それこそ「韋編三たび絶つ」に至りました。わたくしはこの本によつて、どれほど多くのことを教えられたことか。それを思うと、今でも肅然として頭が下がります。しかし、それなら、わたくしが『万葉集古義』の豊かさに満足しきつていたかと申しますと、決してさうではありません。わたくしには、

『万葉集古義』に傾倒すればするほど、物足りなさを覚えずにはいられないことがありました。それは注釈のあとに続くべき歌の文芸性への言及が、ほとんど全くなされていないという事実です。

三

万葉集はいうまでもなく歌集です。歌は紛れもなく文芸——言語によつて表現せられた日本芸術です。しかも日本文芸の醇乎として醇なるものです。まじりけがなく味のこい、おいしい酒です。ですから、そのおいしさの究明——どこがどうよいか、どう美しいのか、何が琴線にふれて人を感動させるのか、といったことが具体的に説明せられなければなりません。

万葉集には約四千五百首(『万葉集古義』では四千四百九十六首)の歌がありますが、その一首一首について——とまでは申しませんが、少なくともその代表的な秀歌について文芸性の究明がなされなければならぬでしょう。これこそ万葉集研究の第一義であります。にもかかわらず、『万葉集古義』には、それがほとんど全くなされていません。これは画竜点睛を欠く——せっかく立派な竜を画きながら、肝心の瞳

を書き入れないことにもなりかねません。わたくしが『万葉集古義』に心底傾倒しながら、物足りなさを覚えずにはいられない、と言つたゆゑんであります。

雅澄先生はなぜ万葉秀歌の文芸性に言及しなかつたのでしょうか。雅澄先生の天才にしてそれを実行することとは、決して難しいことではなかつたと思われまふに……。それが実行せられておれば、『万葉集古義』の価値はいやが上にも高まつたらうと思われまふのに……。

(二〇〇一、一、三十一)
(はまだきよつぐ/国文学者)



「鹿持山」にある雅澄と妻の墓(高知市福井町)

漫画、オノマトペ

そして
ちょっと

文化論

岡本克人

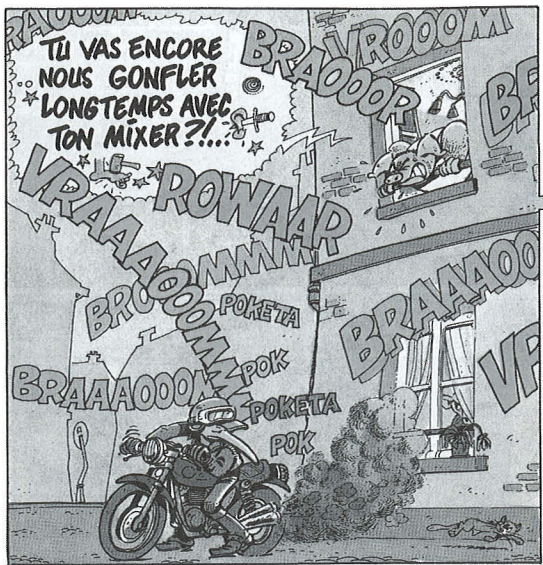


図2 “Les Motards” ①, p.34, Charles Degotte, DUPUIS.

らないうのだが)、叫び声や物音を口真似するのはおかしと思われ、社会で漫画を描こうとすると、漫画家の音の表現に対する態度は二つに分かれてしまうのだろう。つまりフランス語の規範に従ってオノマトペなど使わないか、これに逆らって大量にここぞとばかり

い人はないだろう。ちびまる子横にクネクネと書いてないと、まの子の気持ちは分からない。意図的にオノマトペを入れない漫画もあるが、それはそれでオノマトペをやはり意識して特殊な効果をねらっているわけだ。

「お母さんが漫画はいけな」と言っています」と、借りるのを断った。一時期の日本アニメに対する批判は単に彼らのいうところの暴力シーンが多かったからだけではあるまい。ひとつには漫画やアニメのもつ子供のパワーのようなものに脅威を覚えたのではないだろうか。実際、漫画やアニメで育ったフランス人が親になりつつあり、今、子供と一緒に日本製のゲームで遊んでいるわけである。今後どのような子供文化を形作っていくべきなのか、国際的に考えるときが来ているように思う。

（おかもとかつと／高知大学人文学部教授）

ついでに行けない人が多いのではないだろうか。日本の漫画と比べると、フランスの漫画がこの両極端に分かれる傾向があるのはなぜなのだろう。ここでフランス語の根本的な性質に立ち返ってみよう。フランス語は筆者の知る言語の中では日本語の対極にあるような言語で何もかも異なっているが、何よりも言語に対する態度とでもいえるべきものが、まるで違う。フランス語は規範的で、論理的で、記号としての言語でなければならぬ。つまり大人がちゃんと理性を働かせるときの言葉にしようとする強い傾向がある。分りやすいたとえを使うと左脳中心の言語であ

り、これに対し日本語は右脳が割り込んでくるような言語である。たとえば「隣家の犬がワンワンと吠えつづけ、私はなかなか寝付けなかった。」と日本の大作家が書いても少しもおかしくない。しかし、フランス語の *Mon chien aboie : ouah, ouah.* (私の犬はワンワンと吠える) は、幼児の作文である。この文においては「わんわん吠える」という意味は動詞 *aboie* が担っていて、これで十分と判断され、さらにワンワンと物まねをしてみせるのは子供供っぽい行為にすぎない。ちゃんとした理性を備えたはずの大人が（フランスではなるべく早く大人にならねばな

使うか、のどちらかである。これが先ほどの疑問に対する答えである。ところがこの社会に逆らったはずの漫画のオノマトペを精査してみると、興味深い事実が浮かび上がってくる。フランス語にも多少の擬音語があつて動詞 *ronfler* はブンブンという音を表すものだが、上述『バイク野郎』に現れるバイクの音を拾ってみると *brao, braom, braor, brom, roar, fowar, vrao, vraum, vraum, vrapou, vrar, vroat, vrom, vrow, vrl, vrio, vrow* 等々、よく見るとものと *vrrombr* からほとんど離れられないでいるのだ。

して逃れられないか。考えてみればあたりまえのこと、言語は伝達手段であるとともに社会的契約なので、その言語を使う限り当該社会に帰属する精神的な態度も維持せざるを得ないのである。しかし社会も当然少しずつ動いていく。その意味でフランス人、フランス系スイス人が漫画に対して取った態度は興味深いものだった。ある年配のフランス人女性にフランス漫画を貸そうとすると最初はためらいがちであったが、小学生の娘のためにと言って、だんだん借りるようになった。またスイスからの留学生は、

筆者の専攻は言語学なのでこの領域で気づいた点を述べてみたい。漫画の言葉といえど誰でもオノマトペ（擬音語・擬態語）を思い浮かべるだろう。たとえばゴルゴ13が最後に標的を撃つときのドウウ！とかビシッ！（分厚いガラスを弾丸が突き抜ける）という音を期待していな

日本の漫画はオノマトペと手を切るわけにはいかない。ところがフランスの漫画を見ると、日本人がオノマトペを期待するところで、それが添えてないものはいくらでもあるのである（図1）。戦闘機がはげしく射ち合っているのに音が無い、というのは日本人にはかなり奇妙に感じられる。こういったときに日本人がこの漫画はなんだか「シーン」として、と表現するのも興味深い。こ

これは音無き音とでもいうか、印象が何でもオノマトペにしない気がすまない日本語の性質がよく表れている。ところでフランスの漫画はそのシーンとしたものが多く、一ジャンルを成しているようだが、なぜか逆にオノマトペをふんだんに使い、日本人でもうるさく感じるものがある（図2）。たとえばこの『バイク野郎』とても訳せるシリーズは、ちょっと

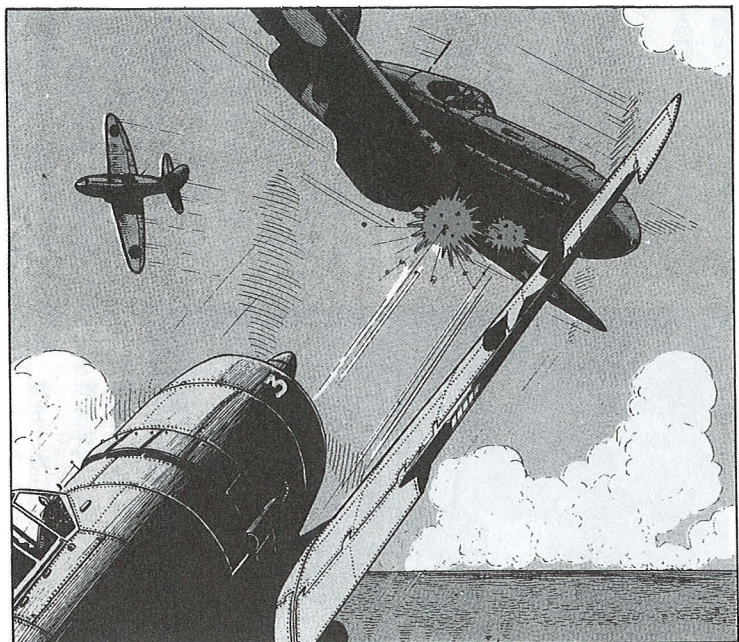


図1 “Les Aventures de Buck Danny” ②, p. 12, J.-M. CHARLIER—V. HUBINON, DUPUIS.

山に学ぶ、木に学ぶ ①

おれは山師じや

福留将史



高知県森林総合センターの里山林で遊ぶ子供たち（土佐山田町）

私は、山師です。今年で三十三歳になりました。でも、今の世の中、林業で食っていくにはたいへんです。ですから、それを見切つて県庁というところに入ったんです。しかし、どうも仕事があだたないと思われたかどうかはわかりませんが、現在(社)高知県森と緑の会で総合学習に向けて森林の学習や、高知の木の文化に関連したセミナー等を担当しています。周りの人からは、「この職場はあんたのためにあるような職場やね」とか、「今のあんたはまるで水を得た魚やね」とかいつて冷やかされます。そんなことで、私は木がとっても好きです。なぜなら、木にはうそがないし、二つと同じ物がない。そしてなにより、私にはそ

れを活かすだけの技術とネットワークを持っているからです。こういえば、自信過剰で高飛車だと思われるでしょうか？でも、その知識は自分の両親や先祖さまから授かったものなのです。私のおじいさんは、木挽きです。親父が小さい頃、信州にいつて木を切つていたと聞いたことがあります。山へいくと、信州から弁当箱へ入れてとつて帰つてきたサワラの木があります。親父は甫喜ヶ峰森林公園に長く勤めていました。今は山で炭を焼いています。スーパリーの主人から朝六時頃から「炭がないか？」と電話がかかってくる。売つたら売るほど赤字がでます。でも趣味ですからなんともないようですが。

そんな生活ですから、小さいときから家に来る人といえば、山の仲持ちか、大工。木を使うプロ中のプロが来ていました。休みといえば、特に何をやるわけでもなく、おじいさんの木を切る山へいつて一緒に木を切ります。私は、そういった経験のなかで、自然に木と対話することを学び、動物を愛し、自然を生涯の職場と考えるようになり現在に至っています。

ある日、こんなことがありました。もう八十歳過ぎのおじいさんが、自分が植えたスギ林の中を歩いているとき、すつと杖を木にあてて「この木は、枯れちゅうのう」というのです。もうすでにその林は、六十年生以上になつていたので、木の梢を見ているのはたいへんで、見上げて也容易には見えません。それどころか、腰の曲がつたおじいさんには上を見上げるなどできないのですから。このときほど驚いたことはありません。このとき、木の肌や、根の張り方、木についているコケや枝の張り方、木の中の成長度合いや色合いを見極めることを習つたのです。人間が宇宙に行く現代。しかし、人は土の中1メートル下でさえ見ることができない。人間が木の中や、地質を見抜いてしまうとは昔の人はす

ごいす。

また、道具の使い方や手入れの仕方などよく教えてもらいました。鋸などは小学校のときから目立てをしています。半日も使うとヒノキのヤニが鋸にひつついて切れが悪くなるからです。そんな時、どうするか。鋸にお茶をかけてヤニをとるんです。お茶もなければ、小川へいつて水につけてしばらく待ちます。するとヤニが取れるんです。それで、何とか一日道具を使います。帰つてからは、次の日にそなえて目立てをしておきます。また、鉋は、切れ味が悪ければ砥石が必要ですが、ないときは鉋と鉋の鋼の部分の互いにこすつて切れ味をもとのようにするといったや



ひいおじいさんから伝わる縦挽きの鋸

り方を教えてもらいました。私はこのように、腰につける道具だけで山を相手に仕事をする魅力に取りつかれていきました。

山では決まり事がよくあつて「二十日は、いくら天気がよかつても山にいつたらいかん。今日は山の神が遊びよる」といわれました。これは、かたくなに注意されよく覚えていきます。ですから、職場の人が山へいくときは「ようそんなときに山へいくわ」とか内心思つているのです。他にも、木元竹裏きもとたけうらは木は元から割つて、竹は梢のほうから割る、とか、木六きむくろの竹八たけはちは木は旧暦の六月つまり八月の、それ

も下旬に切つて竹は十月の闇夜の晩に切るとか、いろいろことわざがあります。

このようなことをいつてると、特に行政の林業職場でこんなことをいつても、誰も取り合つてくれないし、皆下を向いたまま何もいみません。でも、木が冬に備えて準備をし、エネルギーを最大に蓄える時期や、生長のメカニズムが最近わかつてきました。わかってくるたびに——ここでは口伝といわしてもらいますが、そのようなことは本当にあるのです。



山仕事の合間に一息ついて（左が筆者）

これは家に代々伝わる口伝です。少しまえ、膨大なコンピュータ解析の結果、ドイツのカールスルーエ工科大学でクラウス・マテイツク教授が木の形がどのようにしてそのようになるか、ということを発表され、それを聞きにいつたある人に教えてもらいました。そこで重要だったのは、木を人間に置き換え漫画にして子供向けにもしてあることです。私はこの話を聞いたとき、ハツとして、私も同じことを教えられていたと今になって思うのです。その先生とは今ではいい友達です。

私は、自分のことを山師と言いますがそうなるには木を一人の人間として置き換え、その木の発する健康状態や個性を見抜いて山を育てていくプロとして私の仲間を探しています。そこには、金儲けや乱伐はありません。おじいさんは山で木が細いから切るなんてしたことがないし、私も補助金目当ての間伐などはごめんです。私は次の世代の子供たちに大空に向かつてまっすぐ育つ杉の木のようにたくましく大きく成長してもらいたいし、私自身が山師であることで一人(一本)の人間(木)を育てることができるとです。私はこれからも山師でありつづけたい。

(ふくどめまざし)



仮称
横山隆一
コレクション展

2001年4月27日(金)～6月3日(日)
 高知市立自由民権記念館

■「(仮称)横山隆一コレクション展」について

横山隆一先生は、今年五月十七日で九十二歳(一九〇九年生まれ)になります。先生の代表作、「フクちゃん」は今年で、生誕六十五周年ということになります。

先生は一九九六年、日本の漫画家として初めて文化功労者に選ばれましたが、漫画家としてだけでなく様々な分野でトップレベルの活躍をされています。その活動は、漫画家、アニメ作家、画家、随筆家、収集家……と多岐にわたります。

今回の展覧会は、先生から高知市への寄贈作品群の中から、特に収集家としての世界にスポットを当て、珍コレクションやカメラコレクションを中心に、手づくりのジオラマ、絵画作品で構成する予定です。というわけで、これまでの展覧会とは一味違った内容になりそうです。

■「展示テーマ」について

1. アンティックカメラの世界

先生のコレクションを代表するもののひとつです。六〇〇点近いアンティックカメラ・コレクションのほとんどは、先生ご自身のお気に入り

のカメラで、貴重な珍しいものがたくさんあります。先生を理解するにはとても興味深いコレクションといえます。

2. 珍コレクションの世界

先生のコレクションの中で最も有名なコレクション。最初は、先生が個人的に収集しておられたのがいつの間にか話題になり、いろんな方が持ってきてくれるようになり、ますます有名になって、とうとう「横山隆一珍コレクション」としてひとり歩きするようになったものです。今、コレクションのひとつひとつについての逸話を記録しておけば、これらのモノと同時に二十世紀の記憶を語るモノとしても、大変貴重なコレクションです。



平成十四年四月、高知の新しい文化拠点として、「高知市文化プラザ」が九反田にオープンします。

高知市文化プラザの中には、「横山隆一記念まんが館」が入りますが、その開館に向けて横山隆一氏より膨大な資料が届けられています。

その一部をひと足はやく皆さんにご披露しようと、今年四月二十七日

5. 絵画(油彩画・水墨画)の世界

横山先生の文章の中にこんな意味のことが書いてあります。「漫画は「話しかける画」であり、相手にわかってもらう画だからサービスピ精神が必要であるが、油絵は「自分が相手」である。しかし、漫画の癖が残っていついついサービスピ精神が……」といった内容のものでした。

今回の展示では、そうしたサービスピ精神がチャラツと顔を覗かせている楽しい絵が中心となりそうです。先生は、各分野における創作活動の成果がすべて一流のレベルにあるというだけでなく、人生そのものでも人々を楽しませてくれているようです。



3. ジオラマの世界

ジオラマは先生の「遊び心を持った少年の心」が生かされた作品といえます。昭和初期にはやった「たてばんこ」の世界を、先生流に漫画の視点で創作したもので、「ノアの箱船」や「羅生門」などあなたを、不思議な世界へと誘ってくれます。

4. キャラクターグッズの世界

フクちゃんをはじめ、横山漫画のキャラクターグッズも多くの人々に親しまれてきました。

横山先生の「遊び心をもった少年の心」がよく似合う玩具のいろいろをご紹介します。



■高知市文化プラザの紹介コーナー

「高知市に新しいホールができよう、えらい広いギャラリーもあるらしい」「そしたら、横山隆一まんが館はどこにできるが?」「中央公民館もどっかに移ると聞いたけど」etc.……

様々な声が聞こえておりますが、実はこれら全てが、九反田に建設中の「高知市文化プラザ」に入ることになっていきます。「高知市文化プラザ」の紹介コーナーではイラストパース、構造(断面)図、完成模型などを展示し、ご覧になった方々の完成イメージを広げるものとします。

■「まんがバス・電車パネル展」

高知市では、現在、高知県出身漫画作家の作品をペイントした、十一台の路面電車・路線バスが走っています。これは、高知市が行っている漫画王国イメージアップ事業として、見て楽しいバス・電車を目にするのとや利用することで、市民や観光客の方々にも高知の漫画文化に親しんでいただくことと、平成十四年四月に開館予定の「横山隆一記念まんが館」と同年に開催される「よさこい高知国体」のPRをかねており、漫画家の先生方の個性あふれる楽しい

(仮称)横山隆一コレクション展記念講演会(予定)

- 演題 『世界のまんがと横山隆一』
- 講師 小野耕世氏(映画・まんが評論家・作家)
- とき 5月12日(土) 午後2時～4時
- ところ 自由民権記念館1階民権ホール



言葉が変わっていく

藤田ゆみ子

十数年ぶりに放送の現場に再就職し、あらためて、言葉と格闘してきます。世の中が変わっていくのだから、言葉も変わっていくのは当然ともいえます。こうやって、「文化高知」の読者のお目にふれる機会をいただきましたので、今、アナウンスの現場でよく話題にする事柄を書いてみたいと思います。

一つめは、「見れない」「出れない」といった「ら抜き言葉」。これは土佐弁自体に「ら抜き」の傾向があるだけに、高知では若いひとたちだけではなく、皆さんあまり意識せず使用しているようです。

つぎに、「アクセントの平板化」。日本語のアクセントは相対的な音の高低です。これが、いままでは頭高、中高、尾高だったものを若い皆さんを中心に平板アクセントで話すようになってきています。音の高低を書いてご理解いただくのはむづかしいことですが、平板型のアクセントとは、第一音節が低く二番目の音節から高くなり、助詞が高く平らに続きます。

トが変化しました。つまり、ファンという意味に使われる場合には平板型でよくなったのです。ちよっと皆さん発音してみてください。でも問題はこれだけでなくほかの言葉にもこの傾向が強くなっていることです。「ドラマ」、「ビデオ」etc. いろんな言葉にこの「平板アクセント」はひろがっています。

さらにこれに拍車をかけているのがIT関連の言葉の数々。「メール」、



「アドレス」。多分こちらは御年配の方でも平板で発音しているのではないのでしょうか。平板のアクセントで「メール」くださいと言われれば郵便を出す人はいないでしょうし、おなじく平板アクセントで「あなたのアドレスは？」と聞かれると、ほと

んどの方が電子メールまたはホームページのアドレスをお答えになるでしょう。結局のところ、私たちのテレビ局の系列では、なるべく「メール」は「電子メール」または「Eメール」、「アドレス」は「Eメールアドレス」、「ホームページアドレス」と言うことになりました。

また、今年一月に省庁の再編成がありました。「国土交通省」。これを一つの言葉としてアクセントを複合化して読むか、それとも「国土」と「交通」を意味分けして読むのか。とりあえず私たちの系列では後者をとっていますが、他の局では複合化しているところもおおいようです。

以上、わかりにくい説明でしたが、どんどん変化していく言葉にとまどい悩みながら、なるべく「放送の言葉」としてふさわしい言葉を」と格闘する毎日です。世の中が変われば新しい言葉が生まれ、使われなくなる言葉も当然でてくるでしょう。二十

レビ制作部課長

涙の学芸員ブルース(3) 「また逢う日まで」

松本教仁

春とは名ばかりの寒い日が続いています。星がきれいに瞬いている夜空の下、ちっぽけな陋屋の片隅で、かじかむ指に息を吹きかけながらワ

ープロのキーを叩いています。お元氣ですか。随分とお会いしていませんね。もう何年が経っているのでしょうか。

ほくは美術館で元氣に働いています。あの頃、冷たくなった珈琲カップを手のひらに抱えながら君にさんざん語った夢の数々を、今ほくは学芸員としてひとつひとつ、叶えています。

思えば展覧会といえは「県展」ぐらいしか知らなかったこのほくが、大学進学で初めて都会に出て、お金は無いけど時間だけは零れるほどあったその暇にまかせて、何気なくふらりと入った「マン・レイ」という名前の、それまでまったく見たこと



赤岡町にある私立「軒下美術館」(本文とは関係ありません)

も聞いたこともなかった米国作家の展覧会にみぞおちを一発ガツンとやられてしまい、そのひどい後遺症のために日本史の勉強をやめて美術史を学ぼうと、同じ文学部内の美学科への転科を決意したとき、君は「美学科は卒業が楽だから」と皮肉った

ことでした。確かにあのとき、「楽そう」という気持ちは正直ほんの少しはありました。でも、実際美術の世界はそんなに甘いものではなかったですよ。よく「学芸員は十年やってようやく一人前」と言われます。ほくももうすぐ十年目になります。一人前どころか未だ門前の鼻たれ小僧状態です。美術の歴史を学べば学ぶほど

「こんなこと言う」とすごい優等生みたいですが、なんてほくは知らないことだらけなんだろうと落ち込むばかりです。

まあ美術の歴史は人類そのものの歴史と言えらるわけで、それに挑もうなどほとんどドンキホーテの物語。お笑い種かも知れませんが、それにややおもしろいのは、美というのは時々によつてその姿をひよいと変えてしまいう、薄情で移り気なわがまま娘みたいなところがあるのです。これこそ美の本質だと確信しても、次の時代にはもうそれが当てはまらない。

話がわかり難いのですか？ 例え話をしますが、ローマのシステイナ礼拝堂の巨大壁画「天地創造」と「最後の審判」はご存じですよ。ミケランジェロという一人の彫刻家が、鑿を筆に持ち替えて描ききった壮大な宗教絵巻。そして時は下って二十

世紀の初頭にデュシャンという作家が発表した男性用便器にサインを入れただけのオブジェ作品。美術史上では、このどちらかが非常に重要な美とされるのです。

もつとわからなくなりました？ そうでしょうね。荘嚴な絵画世界から便器までに変化してしまう人間の美意識。これから先もどのようなかたちで美が現れるのか、とてもわからないのです。わからないからこそスリリングであり、ほくは現代の美術から目が離せないのかも知れません。

とりあえず、これからのこの仕事を頑張っていきたいと思っています。美術を学ぶだけでなく、この高知から学芸員として美術の歴史の一頁でも創ることができたならば、と相も変わらず馬鹿げた夢を見えています。それではまた逢える日まで、お元氣で。

文化高知 創刊百号、おめでと

うございます。この記念すべき号に拙文を寄せることができるのはとても光栄なことです。連載は今回おしまいですが、お付き合いくださいまして、ありがとうございます。

まつもとのりひと／高知県立美術館主任学芸員



現在の桜井町の町名の由来となった「桜井」。1800（寛政12）年に町奉行馬詰親吉が、当時水質の悪かった下町のために彦根の職人を招いて掘らせた「搦賣き井戸」であった。

清水が湧き出たときの人々の喜びは容易に察しがつくが、21世紀になって多くの芥が投げ入れられているすぐそばの新堀川を見たら、親音がどう思うかもまた想像に難くない。

風俗

望年会

「かやぶきツアー」は、京都在住のサイラー夫妻のピアノ・デュオを聴きにゆくバスツアー。昨年9月で、13回目。
「アタージュ」99号に載った案内状によると、「フルート奏者安藤千織さんによる「アタージュ」のための小さな演奏会と、「アタージュ」に集まった人々による、二

昨年11月、「アタージュ2000望年会」に参加した。
提唱者は、「オフィス結」の前田由紀枝さん。個人通信「アタージュ」を発行し、「かやぶきツアー」を主催する。
「アタージュ」は、発行6年目、100号に達し、会員数1001名。

十世紀から二十一世紀への望年会
それは、また、「かやぶきツアー」の同窓会でもある。
参加者の中には、県立美術館の河村章代さん、県文化財団の浜口真吾さんもいて、今後の美術展のリーフレットを配り、盛んに広報活動を行っていた。
私個人としては、思わぬ収穫があった。安藤さんの演奏中に、一瞬、フルートの音と、吹奏者の声が重なるのを聴いたのである。
あとで訊ねてみると、曲に対する思い入れの激しいとき、無意識に声が出ることもあるし、意図的に声を重ねる奏法もある。由、モンゴル音楽の「ホーミー」を、ふと、連想した。
(念)

賛助会員 募集中

年会費2000円で
どなたでも入会できます

ご入会いただくと……

「文化高知」を年6回
お手元にお届けします。

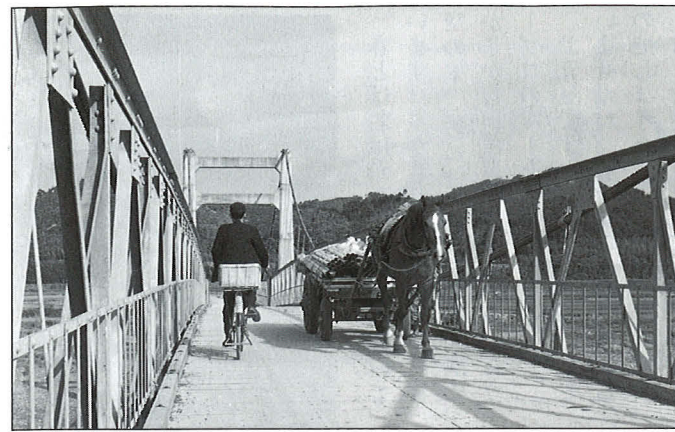
事業団発行の書籍を
10%割引いたします。
(事業団で直接お求めの場合)



お申し込みは……
事業団にお電話でどうぞ。
次号に郵便振替の用紙を
同封してお届けいたします。

今号の表紙

「ドルドーニュ川と古城」 池田 馨
日本にくらべれば、フランスではどの川も満々と水をたたえています。これは水を十分蓄えるだけの森林地帯が広がっているということです。
ドルドーニュ川は私の最も好きな川で、全長約500キロの間に300近くの古城が水面に影を映しています。やがてこの川はポルドーに達し、ガロンヌ川と交流してジロンド川となり、大西洋にそそぎます。
(いけだかおる)



高知を撮る

第16回写真コンテスト入賞作品

今昔の感
(昭和28年 土佐山田町)

徳橋澄夫

戸板島橋を、板張りのため蹄の音を響かせて渡って来る1台の荷馬車。ボンネットバスも今はなつかしい思い出となった。

「キッチンモトイしも、ばい菌」がいっぱい」とテレビ「コマーシャルは、除菌の勧め」を繰り返す。
「殺菌」と言わないのがミソである。そういえば、農薬を散布して虫を殺す時も「消毒」と言う。いずれも、あまり痛みを伴わないで殺生できる有難い言葉である。
素人衆を脅すのもいい加減にしてほころ、と言いたくなる。地球上の生き物は、細菌を含む、数多くの生物に囲まれて生活するのが自然で、「純粋培養」はむしろ異常な生活条件である。
最近では聞かなくなりましたが、昔、益虫と害虫の区別があった。その延長線上で、鳥たちも益鳥と害鳥に分けられていた。害虫を食べる鳥は益鳥で、その逆は害鳥である。鳥をどう分類しようとする間の勝手だが、一方、何を食おうと鳥の勝手である。
世界の中心に人間を据えて、ヒト以外の自然を対象に、それらを人間に都合のいいように改造して、より快適な生活を目指そうという思想が、廿世紀

除菌

風俗歳時記



の文明を支えてきた。
世紀末になり、この考え方が根本的に誤った基礎の上に成り立っていることを同じ文明が明らかにした。自然は人間の対象ではなく、ヒト自体、無数の生き物の一種として、他の生物と共存しなくては生きていけないのである。
適量の「ばい菌」に取り囲まれてこそ、免疫力もつき、健康も維持される。最近 Antibiotic 性疾患が増えているのは、体内から寄生虫を追い出した報いであると言われている。研究者の中には、わざわざ体内に寄生虫を同居させて免疫力をつけている人もいるらしい。
洗剤や農薬にも思い切った発想の転換が求められる。たとえば、効果が長持ちしない洗剤や農薬の開発など、いかがであろうか？ つまり、川や海に流れこむとすぐに分解して、水中の生物に影響しなくなるような薬剤の開発である。
そのような洗剤や農薬のCMが登場する日を楽しみに待つことにしよう。
(略)

「高知市文化プラザ」

文化ホール 概要と使用のご案内

大ホール 演劇、音楽を主目的とした劇場型多目的ホールです。

客席数	全部利用1,085席 (1階客席533席 2階客席255席 3階客席165席) 第1バルコニー席8席 第2バルコニー席36席 第3バルコニー席36席 第4バルコニー席52席
	一部利用832席 (1階客席533席 2階客席255席) 第1バルコニー席8席 第2バルコニー席36席
舞台寸法	間口18.0m×奥行15.0m×高さ22.0m (簀の子下寸法)
プロセニアム	間口18.0m×高さ9~11m (可動)
オーケストラピット	間口15.4~18.4m×奥行4.0m (使用時には客席163席が減ります。)
本花道 (仮設)	幅1.5m×長さ18.4m (使用時には客席51席が減ります。)
附属室	楽屋6室 (洋室)・スタッフルーム・シャワー室・洗濯室

小ホール 平土間で、舞台や客席を自由に設定できる実験的多目的ホールです。

客席面積 (舞台含む)	258.7㎡ (間口11.3m×奥行22.9m×天井高4.5m)
客席数	200席 (移動式)
舞台寸法	間口11.3m×奥行6.3m×高さ4.5m (バトン下寸法)
附属室	楽屋2室 (洋室)・スタッフルーム

リハーサル室 大ホール・小ホール併用利用のほか楽屋等に利用することもできます。

面積	112.5㎡ (間口8.8m×奥行12.5m×天井高4.0m)
----	---------------------------------

録音室・スタジオ

録音室 (22.0㎡) / 第1スタジオ (20.7㎡) / 第2スタジオ (44.7㎡)

●開館時間

午前9時から午後10時まで

使用時間には、準備・後片付けなどに要するすべての時間が含まれます。

催し物の円滑な進行のためにも、十分に検討のうえ余裕をもって使用時間をお決めください。

準備・後片付けによる使用時間の延長についてはご相談ください。

●休館日

月曜日 (ただし、国民の祝日に関する法律に規定する休日に当たる場合を除く)

12月28日から翌年1月4日まで

なお、そのほか施設の保守点検等のために、臨時に休館することがあります。

●申し込み方法

使用の申し込みは使用開始の日の属する月の12か月前の月の初日 (1月においては5日) から受け付けます。所定の「使用許可申請書」に催し物の内容、入場料金、入場方法、開場・開演・終演時間などの必要事項を具体的に記入し、直接お申し込みください。電話などでの照会にはお応えできませんが、原則として電話や郵送による申し込みはお受けできません。

申し込みが複数の場合は、受付開始の日に協議または抽選を行います。

リハーサル室および録音室・スタジオの単独使用は、2か月前から受け付けます。

文化ホール (大)

